

柏崎農業まつりで広報・広聴活動

柏崎周辺農業水利事業所

実りの秋恒例の柏崎農業まつりが10月25日（土）柏崎市総合体育館で開催されました。天候にも恵まれ、会場には旬の地元野菜や農産加工品を買い求める長い行列ができ、地産地消への関心の高さを感じました。なかでも高校生による手作り味噌が人気を集めたほか、多くの地元農家の漬け物・コメ加工品などが出店し、柏崎市でも生産から加工・販売までの6次産業化が着実に進んでいるようです。

柏崎農業まつりは今年で22回を数え、約1万7千人が訪れた会場では、柏崎市のPRキャラ「えちゴン」がカメラにポーズをとり、また農業者の味方「超耕21ガッター」が害虫怪人を退治するショーなどもあり賑やかな秋の一日となりました。

7回目の参加となる当事業所は入り口付近の好位置にブースを設け、事業や地域活動の紹介を行いました。国営事業地区の地形や地域の行事を立体的に表したジオラマの展示や「新潟の土地改良100年」の上映で来場者を引きつけ、パネル・概要図で説明する作戦が当たり多くの方が足を止めていました。職員の説明に、「今年の夏は水があって良かった。」との感想や、「ダムは見学できますか。どのくらい水が溜まりますか。」などの質問



秋晴れのもと開会式



約1万7千人が来場



「えちゴン」もジオラマに興味津々

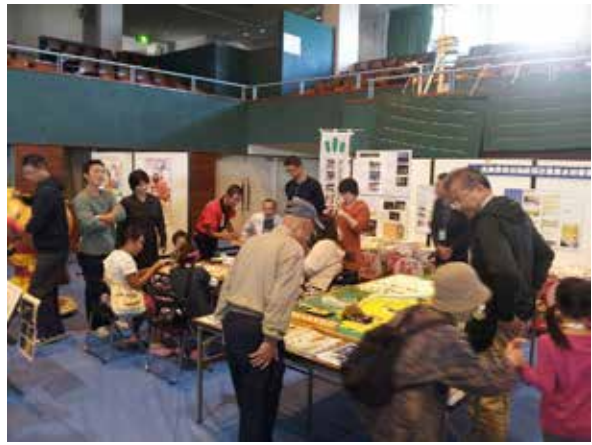
があり、じかに話をする事でより事業に関心を持っていただいたものと思います。

地域活動の紹介は、「^{まんとうえ}万灯会」のPRとろうそくを入れるガラスコップの絵付けを中心に行いました。柏崎地域では「海の大花火大会」と肩を並べる（杣か...）夏の風物詩として定着した「万灯会」は後谷ダム満水を記念して始めた行事で、夕暮れ時にろうそくの灯りでダムをライトアップし、柔らかな灯りで穏やかに夏の夜を楽しむイベントとして、今年も多くの方の来場がありました。絵付けコーナーでは職員が制作した見本を展示して創作意欲を掻き立てたところ、子供を中心に計138個の作品ができあがりました。この作品は来年の万灯会に使い、多くの来場者の目を楽しませることと思います。

約6時間の出展でしたが、こうした地元密着型の活動を通じて地域の皆さんの声を丁寧に聴きながら、伝えたいことを丁寧に伝えることが、活きた広報活動につながっていくものと思います。



愛をこめたヒーロー、ガッター！



賑わう柏崎周辺地区ブース



事業を直接PRできる貴重な機会



今年も絵付けコーナーは子供たちに大人気



来年の万灯会が楽しみです